

「第二十二回庭野平和賞」 総裁あいさつ

本日は、「第二十二回庭野平和賞」の贈呈式にあたり、多くのご来賓のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度の庭野平和賞を、カトリックの神学者であり、「地球倫理財団」の会長を務めるハンス・キュング博士にお贈りできますことを、大変光栄に思います。

キュング博士と私は、共にWCRP国際委員会の共同会長という立場にございます。その意味で私は、今回の受賞者・博士に特別な親近感を抱いているものであります。

先ほどもご紹介がありましたように、博士は、諸宗教の対話・協力に貢献すると共に、平和の実現に向けた「地球倫理」の提唱者として、世界的に注目を浴びている方であります。一九九三年、アメリカ・シカゴで開催された「万国宗教会議」では、博士の草稿した「地球倫理宣言」が採択されております。また一九九八年には、国連人権宣言五十周年に発表された「人間の責任に関する世界宣言」の起草者も務めておられます。まさに、人類をより良い未来に導く精神的リーダーのお一人として、あつい期待が寄せられているのであります。

人類はいま、地球的規模の課題をさまざまに抱えております。それらを解決するには、政治的・経済的・社会的な取り組みが不可欠なことは申すまでもありません。

しかし現実には、問題がかえって複雑化し、悪い方向に向かっているケースも少なくありません。人々は、自己中心的（あるいは自国中心的）な態度に終始するばかりで、共通の精神的基盤、いわゆる普遍的な倫理が見出せないまま、さまよい続けているようにも見受けられます。

この点について、博士は次のように言われています。

『世界の苦悩を阻止するメカニズムの必要性が今ほど叫ばれる時代は、いまだかつてなかった。幸いにも、世界の諸宗教の教えには、普遍的倫理がすでに存在する。これが道徳的基盤となれば、人々を絶望から救う方向性を示し、社会を混乱から遠ざけることができる』と。

宗教者の一人として、改めて襟を正される言葉として受け止めるものであります。

世界には多様な宗教が存在します。このことは残念ながら、「宗教間対立」というような否定的な構図で受け取られる傾向にあります。しかし、そもそも宗教は、自己主張する者の所にはなく、帰依する者の所にあります。個々の宗教の神に、仏に、真に帰依するとき、あらゆる宗教は、根底で必ず一つにつながるのであります。

日本の有名な道歌に、次のようにうたわれています。

『分け登る ふもとの道は 違えども 同じ高嶺の 月を見るかな』

「分け登る ふもとの道は 違えども」とは、宗教の教義、儀式・儀礼などの特異性、相違を意味するのであります。しかし続いて「同じ高嶺の 月を見るかな」とあります。つまり、どの宗教も、本源は、ただ一つである、と喝破しているのであります。

博士も、『地球倫理とは、現存する宗教を超える一つに統合された地球宗教とか、一切の宗教の混合を意味しているのではない。地球倫理とは、世界の諸宗教が現在すでに持っているものを、共に成し遂げようというもの』と位置づけられています。

私は、博士の言われる「諸宗教が現在すでに持っているもの」とは、結局、「いのちを尊ぶ」という一点に帰結すると思うのであります。

仏教は慈悲の心から、「不殺生」（人を殺さない）ということをし、最も重要な戒律としています。いのちの尊さ・

尊厳を根本の智慧として、人間相互に合掌礼拝し、尊重し合う大切さを説いています。

博士の提唱される「地球倫理」の中では、四つの普遍的な教えが示されています。第一に「殺してはならない」、第二に「盗んではならない」、第三に「嘘を言ってはならない」、第四に「性的不道徳をおかしてはならない」——これらは全て、「いのちを尊ぶ」という宗教の精神に貫かれているものばかりです。そして、このことは、仏教は当然ながら、あらゆる宗教に共通する智慧であると思います。

世界には、いまこの瞬間にも、さまざま苦が存在します。その一つ一つに救いの手を差し伸べることは、現代人の大事な役割でありましょう。例えば、紛争による負傷者、難民や避難民の救援は、一刻を争う課題です。しかし、紛争が続く限り、再び同様の苦が生まれることも事実です。問題の根本的な解決のためには、博士のおっしゃるように、宗教的価値観を踏まえた「世界の苦悩を阻止するメカニズム」の構築こそ急務なのであります。

その意味で、博士の示された「地球倫理」は、諸宗教者のみならず、世界のあらゆる人々にとって、未来に向けた明確な「道しるべ」となるものであり、世界を変えるための歴史的な提唱と言っても過言ではありません。改めて深く敬意を表する次第であります。

博士が草稿し、「万国宗教会議」で採択された『地球倫理宣言』は、最後をこうしめくくっています。

『我々は、この惑星の一切の住民たちに訴える。個々の意識が変わらなければ、地球は良い方向に変えられない。我々は、心の転換のために働くことを誓約する。一緒になれば、山をも動かすことができるのだ』と。

この言葉を、今日、ここにご参集の皆さまと共にかみしめ、今後、さらに「心の転換のために」努力する決意をしてまいりたいと思います。

本日の贈呈式を契機として、「地球倫理」の精神が一人でも多くの人々の心に根づき、またキュング博士が一層ご

活躍くださることを祈念し、あいさついたします。
皆さま、ありがとうございました。